

令和5年度 第6学年 授業改善推進プラン

台東区立蔵前小学校

1 児童の状況及び実態

国語	<p>全国学力調査結果から、全体的に平均正答率を全国及び東京都よりもやや上回る結果である。特に「話すこと・聞くこと」では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることは大きく上回った。記述式の問題では図表やグラフなどを読み取り、自分の考えが伝わるように工夫して書くことについて無回答率が多い結果である。問題の意図は理解しているが自分の考えをどのように工夫して書き表したら良いかの習得が不十分であることが分かる。問題によっては自分の考えをもち、まとめることに課題が見られる。</p>
社会	<p>社会科に対しての関心は高く、物事を知ろうという意欲がある。社会的事象にも関心ある児童が多く、新聞やニュース等の出来事にも目を向けている。知識では、歴史分野に比べ、政治などの公民分野を苦手とする児童が多い。物事の背景や関係性について多角的に捉えたり、事実を基に自らの考えをもったりし、それを適切に言葉で表現することに課題がある。</p>

2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<p>○知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の知識の定着させる力 目的に応じた読む力の育成及び語彙力の向上 国語辞典の活用による言葉の理解 <p>○思考力・判断力・表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> 深める時間の確保及び交流を通して自分の考えを広げる力 <p>○学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容に興味・関心を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字のテスト（10問）を定期的に行い定着を図る。 定期的な図書室利用と音読カードを活用した家庭での読書活動を推進し、語彙力を高める。 国語辞典を活用し言葉の意味や使い方の定着を図る。 叙述を基に自分の考えを書く時間の確保を十分に行う。また児童同士の交流の機会を設定し、よりよい表現方法を学ぶことができるように工夫をする。 言語活動を適切に取り入れ、単元の導入を工夫し、見通しをもって学習に臨むことができるよう授業を組み立てる。
社会	<p>○知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県などの地理的知識の定着を図る力 政治分野での知識の定着させる力 資料から適切な情報を読み取る力 <p>○思考力・判断力・表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象を多角的に考える力 考えを説明する力 <p>○学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳や地球儀を用いたゲームなどを取り入れ、特徴や関係性を捉えやすくなるようにする。 時事的な出来事を話題とし、関心を高められるようにする。 グラフの読み取りでは、単位や値を指し示し、必要な情報と根拠を意識させる。 政治の仕組みや働き、歴史の出来事を関係性や時間の変化などから多角的に考え、個別の事象としてではなく全体像から捉えられるようにする。 事実・根拠と考えを区別させる。文章でも発言でも、事実や根拠を示してから考えを述べるという型を指導する。 学習内容について、自分の社会や生活とどのようにかかわっているかを考え、行動し互いの考えを共有して意識を高める。